



長期入院者の地域生活への移行と それを支える精神科医療

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課長 **北島 智子**

公益社団法人日本精神保健福祉連盟の会員の皆様には、日頃より、精神障害者の保健医療福祉の向上にご尽力をいただくとともに、行政施策の推進に多大なるご支援とご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

精神保健医療福祉については、平成16年の「精神保健医療福祉の改革ビジョン」において、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方向性が示されてから10年が経過いたしました。今年が改革ビジョンのレビューを行い、新たな方向性を打ち出していく重要な年になると考えています。

この間、平成22年6月には、障害者制度改革推進会議により「障害者制度改革の推進のための基本的な方向について」が取りまとめられ、「退院支援・地域生活支援に係る体制整備」「強制入院・保護者制度の見直し」「精神科医療現場における人員体制の充実」を柱として施策を進めていくこととされました。これを受けて、「退院支援・地域生活支援」については医療計画への精神疾患の追加や、アウトリーチ、精神科救急医療体制の充実等について施策の充実を図るとともに、「強制入院・保護者制度」「人員体制の充実」については、それぞれ検討会を立ち上げて議論を行い、それらの議論が、平成25年6月の精神保健福祉法改正に反映されました。

平成26年4月に改正精神保健福祉法が一部を除き施行され、「精神障害者の医療の提供を確保するための指針の策定」「保護者制度の廃止」「医療保護入院の手続きの見直しと精神科病院の管理者への義務づけ」が実施されました。医療現場においては、多くの準備を要する改正となりましたが、関係の皆様のご尽力により、無事、施行できましたことに改めて感謝申し上げます。

一方、「精神障害者の医療の提供を確保するための指針」の策定過程において、引き続きの検討課題とされた「長期入院精神障害者の地域移行」については、具体的な検討を行うため検討会を設置し、平成26年3月28日から議論を開始いたしました。

検討に当たっての基本的な考え方としては、①長期入院患者本人の意向を最大限尊重しながら検討すること、②地域に直接移行すること、の2つの視点を最も重視し、新たな選択肢も含め、地域移行を一層促進するための取組を幅広い視点から検討することとしています。また、検討の進め方としては、長期入院患者の実態を踏まえ、退院に向けた意欲の喚起や本人の意向に沿った移行支援といった退院に向けた支援と、居住の場の確保等の地域生活の支援に分けて、それぞれの段階に応じた具体的な支援の内容について検討を行っています。

また、長期入院患者の地域生活への移行が進むと、病院においても外来診療はもとより、精神科救急、急性期医療など、地域生活を支援するための医療ニーズが高まっていくことから、マンパワーなどの医療資源についても地域医療や救急医療等にシフトすることなどを含め病院の構造改革を行っていくことについても議論が行われています。この検討については、本年6月中を目途に意見を集約することを予定しています。

改革ビジョンから10年が経過する中で、これらの検討が関係の皆様のご理解とご協力を得て、精神障害者の地域生活への移行促進に資するものとなりますよう願っております。

「メンタルヘルスの集い」(第28回日本精神保健会議)の報告 テーマ「精神障害のある人の自立支援とこれからの社会 -すべての人にやさしい街づくり」

公益財団法人日本精神衛生会理事 **林 直 樹**

標題の「メンタルヘルスの集い」は、一般市民や精神保健に関わる人々が、メンタルヘルスについて共に語り合うことを目的として、日本精神衛生会が毎年3月に開催しているイベントです。会場は東京有楽町の朝日ホールで、参加費は無料です。本年は、「地域における精神障害のある人の自立支援と…すべての人にやさしい街づくり」のテーマの下、296名の方々にご参加いただきました。

精神障害のある人の自立支援は、多くの地域において熱心に取り組まれている課題です。その中では、障害のある人が他の人々と力を合わせて地域活動を積み上げながら、新たに生産活動や文化活動を創出する動きも見られるようになってきています。それは、すべての人が分け隔てなく関わり合う「やさしい街づくり」に通じる活動でしょう。さらにこの「集い」では、東日本大震災の被災地での精神保健活動も取り上げられています。大災害に見舞われた地域では、住民すべてが分け隔てなく協力して復興することが求められます。「やさしい街づくり」がこれほど重視される状況はないでしょう。

今回の「集い」の主なプログラムは、東日本大震災に見舞われた障害のある人々や関係者の苦闘を描いたドキュメンタリー映画「生命のことづけ～死亡率2倍 障害のある人たちの3.11」の上映、障害のある人と共に街づくりを進めている長野敏宏氏（御荘病院、ハートinハートなんぐん市場）の講演、宮崎宏興氏（NPO法人いねいぶる）、金井聡氏（社福つくりっ子の家）、大石万里子氏（南相馬市健康づくり課）の活動報告から構成されるフォーラムでした。長野氏は、障害のある人となない人が共に生きることの実践を力強く語りました。宮崎氏と金井氏は、それぞれ兵庫と東京での自立した障害のある人々の地域活動を報告しました。それらは、地域活動がまさに「街づくり」になっていくことを実感させるも

のでした。大石氏は、大震災の打撃から、障害のある地域の人々と精神保健スタッフが手を取り合いながら災害の傷から回復しつつあることを報告しました。それは映画「生命のことづけ」の続編というにふさわしいものでした。その後の指定発言やフロアの参加者を交えての議論では、さまざまな立場の人々から全体への「一緒にやろう」という呼びかけや、「被支援者と支援者を活動の中でまだ区別していないか？」といった問題提起がなされました。それらの真剣な議論では、現実の困難や矛盾を意識しつつも「やさしい街づくり」の実績が確認され、それへの期待が表明されていました。「やさしい街づくり」は活動の理想です。その動きがもっと広がるなら、私たちの社会は、精神障害のある人がもとのびのびと活躍できる場となってゆきましょう。

この「集い」の詳しい内容は、当会が発行する広報誌「心と社会156号」〈平成26年6月発行〉に収録されています。

なお、次回第29回の「メンタルヘルスの集い」は、平成27年3月7日（土）に、今回と同じ朝日ホールで開催される予定です。参加費・事前申込みは不要です。この「集い」と広報誌「心と社会」に関するお問い合わせは、公益財団法人日本精神衛生会事務局〈電話03-3269-6932〉、z-seisin@dc4.so-net.ne.jpまでお願いします。



メンタルヘルスの集い (第28回 日本精神保健会議)

**精神障害のある人の自立支援と
これからの社会**
～すべての人にやさしい街づくり～

日 時 ▶ 平成26年3月1日(土) 10:00-16:00 (開場9:30)
 会 場 ▶ 有楽町朝日ホール(有楽町マリオン11F)
 参加費 ▶ 無 料(事前予約不要・先着600名)

午後の部 (10:00～12:15)

◎ 映画上映 **生命のことづけ**
～死亡率2倍 障害のある人たちの3.11～
監督・脚本 早瀬憲太郎
 障害のある人の生き分けられたのは何故か、どうすれば人間としての尊厳を失わずに生きることができるのか、新たな大震災の可能性が指摘される中、震災を経験した加害者、被害者の姿を通して、今後の復興と被災地づくりに対した思いが伝えます。

◎ 映画上映 **共に生きる! 共に働く**
～愛知県愛知郡における「精神科医療の構造変革」と「生業(きずまい)づくりへの挑戦」～
長野 敏宏 公益財団法人正光会御荘病院 業務理事・院長
 NPO法人ハートinハートなんぐん市場 理事
 大石 万里子 公益財団法人日本精神保健福祉士協会 常務理事

昼 食 (12:15～13:00)
 午後の部 (13:30～16:00)

◎ フォーラム **精神障害のある人の自立とやさしい街づくり**
(シンポジスト)
大石万里子 兵庫県 南相馬市健康づくり課 健康推進係長 宮崎 宏興 作業療法士 NPO法人いねいぶる 理事長
金井 聡 精神保健福祉士 社会福祉士つくりの会 理事
(傍聴見聞) 当事者、家族、一般市民、それぞれの立場から
 コーディネーター
林 直樹 帝京大学附属病院精神科教授 上野朋生子 東京大学大学院教授

◎ 総合司会 **池田 真理** 東京大学大学院助教

◎ 主催 公益財団法人 **日本精神衛生会**
 〒03-3269-6932 <http://www.jamh.gr.jp>

◎ 協賛 厚労労働部 東京都 朝日新聞厚生文化事業団 NPO厚生文化事業団
 メンタルヘルス局本誌社財団 朝日新聞社 朝日新聞社 朝日新聞社 ヤマト福祉財団

◎ 協賛 精神保健福祉士協会 <http://www.keirin.jp>
 精神科福祉士協会 <http://www.singring-keirin.jp/>

龍馬だけじゃないですき… 高知県立精神保健福祉センターの動き

高知県立精神保健福祉センター所長 山崎 正雄

高知県立精神保健福祉センターは、所長以下7名の職員と6名の非常勤職員で業務を行っています。高知というと、坂本龍馬ばかりが目立っていますが、森田療法の森田正馬の生誕地でもあります。どちらも「馬」がついていますが、特に関連はわかりません。当センターにはひきこもり地域支援センター、自殺予防情報センターも設置しており、少ない職員で、それこそみんな何馬力も出して駆け回り、奮闘努力しています。

当センターは地域への支援も重視しており、毎週のように県下各地に出向いてのケース検討会、業務検討会、研修をおこなっています。東は室戸岬から西は足摺岬まで、東西に長～い県です。県内での移動の時間は、航空機での東京往復より時間がかかります。それでも、保健師さんはじめ各市町村職員の方々や関係機関の方々と顔を合わせての活動を重視しています。情報やデータだけならネットやメールで即時にやり取りできる時代だからこそ、現場を大

切にしたいと思います。最近は、自殺予防やひきこもり、発達障害、困難事例などへの対応などから、弁護士、司法書士、警察、消防などさまざまな職種の方たちと連携することも多くなってきました。一部地域では、市町村職員、医療機関、障害者支援の事業所などとのネットワークを長年続けています。当然のように、夜の会も盛んで、ホンネでの議論から癒しの交流まで、絆を深める「飲みにケーション」をみんな大切にしているようです。ただ、高知県は断酒会発祥の地でもあります。依存には気をつけたいところです。高知県は、飲み屋やパチンコ屋さんの数も多く、当センターでも、アルコール依存症、ギャンブル依存症など依存関係の相談が多くなっています。依存症をはじめ、県民のさまざまなメンタルヘルス上の問題、特に既存の医療や福祉では対応が困難な問題への対応が、当センターの役割だと感じています。職員一同、精一杯県民のために取り組んでいきたいと思っています。

秋田県精神保健福祉センターの動き

秋田県精神保健福祉センター所長 伏見 雅人

秋田県精神保健福祉センターは、県庁所在地である秋田市の秋田駅西口から徒歩5分程度（都会？）の秋田市中通にあります。ずっと同じ場所にあったわけではなく、平成に入ってから2回移転しています。元々は現在とほぼ同じ場所にありましたが、平成9年に秋田市から約25km離れた仙北郡協和町（現大仙市協和）に秋田県立リハビリテーション・精神医療センターが開設された際にその施設内に移転しました（医療とのコラボ？）。その後、平成20年に再び移転して現在に至ります。ちなみに身体・知的障害者更生相談所機能を有する秋田県福祉相談センターと同じ場所です（身体・知的障害とのコラボ？）。長く続いている他機関との同居生活にも何となく慣れてまいりました。

当センターでは、これまで精神保健福祉に関する相談を中心に、教育研修、普及啓発など行ってきましたが、最近の動きとしては、昨年10月に「秋田県ひきこもり相談支援センター」が開設されたことが

あげられます。選任のコーディネーターも新たに配置され、ひきこもり状態にあるご本人やそのご家族からの相談に応じるなど日々頑張っております。

ところで、秋田県のマスコットに、本県の本である秋田杉をモチーフにした「スギッチ」があります。平成19年の秋田わか杉国体・秋田わか杉大会で大活躍してくれたので、ご存じの方もいらっしゃるかと思います。ちなみに「スギッチ」は秋田県のマスコットとして県職員になっており、しかも平成20年12月には主任に昇任もしています（今後、主査とか、副主幹とか、どんどん昇任していくのでしょうか？いずれは当センターの所長が「スギッチ」となる日が来るのかもしれない！）

天然秋田杉は、成長こそ緩やかですが、年輪の幅が狭く強度に優れているそうです。当センターも、天然秋田杉のように緩やかであっても着実に成長し、力強いセンターに育ってほしいものです。今後ともご協力の程よろしく願いいたします。

公益社団法人日本精神保健福祉連盟役員並びに名誉会長一覧

平成26年7月6日現在

1. 理事 (15名)		
【代表理事 2名】		
会長	公益社団法人日本精神科病院協会	仙波 恒雄 (非常勤)
理事長	国際医療福祉大学	鹿島 晴雄 ()
【常務理事 3名】		
常務理事	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会	吉川 武彦 ()
	日本精神衛生学会	大西 守 ()
	公益社団法人日本精神科病院協会	富松 愈 ()
【理事 10名】		
理事	公益財団法人日本精神衛生会	牛島 定信 ()
	公益財団法人復光会	佐藤 譲二 ()
	公益財団法人矯正協会	水上 要 ()
	公益社団法人全日本断酒連盟	中田 克宣 ()
	一般社団法人日本精神科看護協会	早川 幸男 ()
	公益社団法人アルコール健康医学協会	玉木 武 ()
	公益社団法人日本精神神経科診療所協会	渡辺 洋一郎 ()
	公益社団法人日本精神保健福祉士協会	竹中 秀彦 ()
	公益社団法人日本精神科病院協会	大野 史郎 ()
	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会	高畑 隆 ()
2. 監事 (2名)		
	公益社団法人日本精神科病院協会	松村 英幸 ()
	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会	丸山 晋 ()
3. 名誉会長 (2名)		
	公益社団法人日本精神科病院協会	栗田 正文
	慶應義塾大学名誉教授	保崎 秀夫

【役員任期 平成25年6月25日より平成27年の定時社員総会終了まで】

注1 公益社団法人日本精神保健福祉連盟定款第27条 (役員任期) によるものとする。

編集後記

連盟だよりNo. 50をお届けします。記念すべき50号となりました。

創刊号は1996年1月号となっていますが、実際に発行されたのは8月だったようで、いろいろと準備が大変だったのでしょうか。

創刊号の巻頭言には、島藺安雄会長 (当時) が連盟の歴史的背景に触れ、さらに16団体 (当時) で構成される連盟内の意思疎通をはかるための連盟だより創刊の意義を強調されています。同じく、編集を担当された (おそらく編集委員長) 石原幸夫先生が編集後記を書かれています。

当初は定期刊行がうまくいかなかったようですが、その後は現在の年3回の定期刊行が順調に続けられています。これも関係各位のご協力の賜物です。

さて本号では、厚生労働省精神・障害保健課長の北島智子先生からご玉稿をいただきました。深く感謝申し上げます。文面にありますように、平成16年の「精神保健医療福祉の改革ビジョン」から10年が経過し、新たな方向性を打ち出す大切な年であることがよくわかりました。当連盟の施策にも反映していきたいと思います。

今年度も、精神保健福祉全国大会の開催、全国障がい者スポーツ大会への精神障害者バレーボール競技の参加など、多くの事業が予定されております。引き続き、関係団体の方々のご理解・ご協力をお願い申し上げます。(M. O.)

編集委員会

委員長	大西 守	公益社団法人日本精神保健福祉連盟常務理事	発行者	公益社団法人 日本精神保健福祉連盟
委員	仲野 栄	一般社団法人日本精神科看護協会専務理事	会長	仙波 恒雄
	高畑 隆	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会理事		〒108-0023 東京都港区芝浦3-15-14
	塩入 祐世	公益社団法人日本精神神経科診療所協会会員		TEL 03-5232-3308 FAX 03-5232-3309
		東京精神神経科診療所協会理事		Email : f-renmei@nisseikyo.or.jp
	寺田 一郎	(社福)ワーナーホーム理事長		HP : http://www.f-renmei.or.jp
発行	平成26年7月		印刷	社会福祉法人 新樹会 創造印刷